

# 1. 外部評価結果報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970101354
法人名	有限会社 ドリームデベロップ
事業所名	ディーディー学園前 Ⅲ・Ⅳ
所在地	〒631-0026 奈良市学園緑ヶ丘1丁目9-12 (電話)0742-40-4867
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成21年2月5日

## 【情報提供票より】(平成21年1月19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	7 人	常勤	1 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 4.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,850 円	その他の経費(月額)	25,200 円
敷金	有( ) 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 240,000円 ) (更新契約金120,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 2,300 円			

### (4) 利用者の概要(1月19日現在)

利用者人数	12 名	男性	1 名	女性	11 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.0 歳	最低	68.0 歳	最高	93.0 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西奈良中央病院、阿部クリニック、高田歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

奈良市西部に位置し、閑静な住宅街の一角にあり、ごく一般的な木造2階建て住宅2棟をグループホームに活用しており、近隣との調和もとれ、違和感はない。最寄の近鉄学園前駅からのバスの便もよく、周囲には田畑が広がり、季節の移ろいを感じとれる。入居定員は1棟につき5~9名のところ6名という少人数で家庭的な雰囲気である。朝食は職員による手作りを提供し、昼・夕食はクックチル方式を利用し、高齢者向けメニューで栄養のバランスも取れている。職員は一人ひとりのペースに合わせてレクリエーションを行ったり、利用者の思いや希望に添うよう工夫して介護しながら、自立支援を目指している。医療面は万全で、重度化及び看取りに関する指針も策定されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の主な改善課題である地域交流については、自治会役員を担い、また運営推進会議を年3回開催し、地域や関係機関との活発な意見交換を行うなど積極的に取り組まれている。フェイスシートや日々の個人記録も充実し、介護に活かされている。さらに取り組んで頂きたい課題として、利用者の日常的な外出や食事を楽しむ支援についての工夫、職員の計画的研修、「ホーム便り」などで定期的に家族への状況報告等について検討されることを期待します。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 自己評価は管理者が中心となって作成している。社員会議や回覧で職員に自己評価についての意見を求めている。運営者・管理者・職員とが評価の実施について話し合い、一連の過程を全職員で取り組み、サービス向上に活かされることを期待します。
重点項目②	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> 運営規程にも「運営推進会議」の設置を明記しており、地区の民生委員・関係機関の方々の出席のもと、年3回開催している。事業所の理念や概要を説明・現況報告などを行い、意見交換をし、サービス向上に取り組んでいる。できれば自治会の参加を働きかけ、より地域に密着した取り組みをすすめます。
重点項目③	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> サービス内容説明書に苦情・相談窓口を明記し、契約書にも「迅速・適切に対処し、サービスの向上・改善に努める」と記載されている。また家族の面会時には、日常の様子を報告すると共に意見や要望を聞き、職員間で情報を共有し介護に活かしている。
重点項目④	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 自治会に加入している。自治会役員も経験し、ゴミ置き場や回覧板の管理また奈良市の広報誌を利用者と共に各家庭に届けている。今後、地域ボランティアの受け入れの検討をすすめます。

## 2. 外部評価報告書

取り組みを期待したい項目

(    部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念に加え、「心安らぐ環境で、いつも穏やか助け合い、今日一日を豊かにくらす、笑顔あふれるマイホーム」という独自の理念を作りあげている。	○	グループホームは地域との関係性が重視されています。家庭的な環境のもとでの日常生活の介護に加え、地域住民としての役割や交流を謳った、地域密着型サービスとしての理念を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には、必ず理念を説明し、理解してもらっている。職員や来訪者にもすぐ目に付くよう、玄関・事務所に理念を掲示しており、全職員は日々確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。自治会役員も経験し、ゴミ置き場や回覧板の管理また奈良市の広報誌を利用者と共に各家庭に届けている。毎年の家族交流会には皿回し・ハーモニカなどのボランティアを招いている。今後自治会の方々も招待することを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が中心となって作成している。職員会議や回覧で職員に自己評価についての意見を求めている。	○	運営者・管理者・職員とが評価の実施について話し合い、一連の過程を全職員で取り組まれ、サービス向上に活かされることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営規程にも「運営推進会議」の設置を明記しており、地区の民生委員・関係機関の方々の出席のもと、年3回開催している。事業所の理念や概要を説明・現況報告などを行い、意見交換をし、サービス向上に取り組んでいる。できれば自治会の参加を働きかけ、より地域に密着した取り組みが望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	奈良市役所担当者とは、事業所の現況報告をしたり、伺いをたてたりして、連絡を取り合い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎年家族交流会を開催し。暮らしぶりや健康状態を説明し。様子を観てもらっている。日常変化があれば、その都度報告している。金銭管理については、出納票を毎月送付している。	○	暮らしぶりや健康状態などを定期的に報告し、家族との交流を深められることをすすめます。「ホーム便り」を作成し、職員の一言を添えられてはいかがでしょう。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス内容説明書に苦情・相談窓口を明記し、契約書にも「迅速・適切に対処し、サービスの向上・改善に努める」と記載されている。また家族の面会時には、日常の様子を報告すると共に意見や要望を聞き、職員間で情報を共有し介護に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間のチームワークはよく、職員交代は無い。利用者は落ち着いた雰囲気のもとで生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の質の確保・向上のため、研修に参加できるよう努めている。新任職員については1ヶ月現場で研修している。次年度は実践者研修修了者職員のリーダー研修への参加について検討している。	○	事業所内・外での研修が計画的に行われることをすすめます。また職員同志が、お互いに学びあう姿勢で日々の介護を行うなどの取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良西部エリアネットワーク会に参加し、情報交換を行っている。また講師の依頼があり、グループホームについて講演したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族との面接には十分時間をとり、事業所内を見学してもらい、不安のないよう納得いくまで説明している。希望すれば体験入所も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のペースに合わせた、利用者の得意分野を生かしたレクリエーションを行っている。職員は百人一首を教えてもらったり、習字や絵を趣味としている利用者の作品を居間に飾り、皆で楽しんでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との日常会話の中で、希望や意向を聴き、実現に努めている。食べたいものがあれば、外食したり誕生日会のメニューに取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望や意向を尊重し、介護の方針について話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があればその都度、変化が無くても3～6ヶ月で見直しを行い、利用者の状況に応じた計画を作成している。	○	定期的に全職員で話し合うことをすすめます。そのためにも作成された介護計画に対する評価が必要と思われます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所の運営はグループホームのみのため、多機能を活かした取り組みはない。前もってわかっている通院については家族またはヘルパーを利用して送迎してもらい、緊急時については職員が付き添って対応している。	○	本人や家族の要望に沿うよう、柔軟な支援が望みます。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人・家族の希望を優先し、かかりつけ医を決めている。最近本人の希望でN病院に入院された方がおり、家族と連携をとりながら受診を続けていただいた。また、週1回のホームのかかりつけ医の往診と3ヶ月に1回の歯科検診もあり、状態の変化には対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所契約時に「重度化及び看取りに関する指針」について説明しており、利用者および家族の意向を尊重し、意思確認をしている。昨年からは非常勤で看護師を配置し、ホームかかりつけ医の24時間対応もあり、看取りの体制はできている。		
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った声かけ、支援がなされている。入浴・排泄時のプライバシーの確保は行き届いている。個人ファイルは事務所に保管されており、日々の個人ケア記録についても職員により管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思い思いの場所で一人ひとりのペースでレクリエーションに参加している。毎日の個人記録に一人ひとりの様子や言葉を書きとめて、利用者の希望にそうよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は手作りで、昼・夕食は業者の配食サービス(真空パックの食材を温めて盛り付け)を利用している。四季折々のメニューで便利ではあるが家庭的な味とは言い難い。職員は弁当を持参で、おやつやイベントの時以外は利用者と一緒に食べていない。	○	食事は一番家庭的な暮らしの場面である。せめて味噌汁は手作りにしては如何でしょう。職員も味噌汁と弁当と一緒に食べることで、一層親密感がわき、会話も弾み、和やかになるのではないかと。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回夕方から入浴タイムとなっている。着替え・入浴・ドライヤーと3人体制をとっており、安全安楽に配慮している。入浴は同性介助で一人ずつゆっくり楽しめる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ等の役割を積極的に手伝ってもらっている。レクリエーションで歌を唄ったり、はり絵をしている。書道の得意な方、絵の得意な方の作品が壁に掛けられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	奈良市の広報誌配りを手伝ってもらっている。半数以上が車椅子外出になるが、玄関の段差や庭に下りる掃き出し窓の段差など障害が多い。	○	手すり・踏み台などを取り付けて、安全に外出できるよう工夫されることをすすめます。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中ゆったりした時間帯には職員の見守りがあるので、玄関の鍵を開けている。入浴時は安全のため鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の対応マニュアルはないが、緊急連絡網は台所に掲示してある。避難訓練を年2回近隣に声かけしながら実施し、課題を把握し、災害時に備えている。今年3月のスプリンクラー設置について検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた業者の配食サービスを受けており、それぞれの利用者の食べた量や水分量は個人記録に記入されている。発熱・嘔吐で寝込まれた方についても、水分確保がしっかり記入されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の住宅なので家庭的で居心地はよい。居間には利用者のプロフィールが貼ってあり、季節の飾りつけもされている。夜間は安全のため、各部屋にセンサーを取り付けている。階段昇降機が設置されており、安全に移動できるようになっている。トイレは車椅子が入らないので、介助を工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納に便利な大きめのクローゼットがあり、ベッドの周りは広々している。各自、仏壇・鏡台・写真・ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		